目が不自由なこと

　　山枝　四年一組　山崎　でぃな

　私は最近学校で、点字について習いました。点字は、目の不自由な人が本を読んだり、きっぷを買ったり、エレベーターのボタンを押したりする時などに使われるそうです。他にもグループで、もうどう犬についても調べました。もうどう犬は、目の不自由な人をいろいろな所につれて行ってあげます。家の中では、新聞をとって来たり、電気をつけたり、消したりもしてくれるそうです。私は目の不自由な人の気持ちは分かりません。なぜなら、私は目がとても良いからです。もし今、目の前が真っ暗になったら、私は何も出来なくなると思います。点字をおぼえる事もむずかしくて出来ないと思います。とても細かいし、さわっても何も分かりません。もうどう犬も大きくて、少しこわい気がします。いっしょに住めるのか、分かりません。

　私のお父さんには、右目がありません。二十一さいの時に、事故でなくしたそうです。今はぎがんをしています。それは、本当の目のように見えます。だから、右目が見えてないかどうかは、よく分かりません。お父さんは、片目しかないけれど、何でも出来ます。車も運転出来るし、ゲームもいっしょにやります。一つだけ出来ないことは、3D映画を見る事だそうです。お父さんの事がかわいそうだと思います。なぜなら、3D映画は楽しいし、飛び出してくる動像は、ドキドキします。いつかお父さんでも見れるように、かた目でも見れる3D映画が出てくれるとうれしいです。

　お父さんみたいに、かた目を失ってしまった人もかわいそうだけど、やっぱり両方の目が見えない人の方が何倍もかわいそうに思います。点字が発明されたり、もうどう犬が助けてあげたりしているけれど、やっぱり出来ない事はたくさんあると思います。私は、目の不自由な人を、そんけいします。みんな、一生けん命に生きているからです。いつか私も、手をかしてあげられる人になりたいです。

①

平和について

L工校　四年一組

イスラス　ダニエル

ぼくは、最近、平和について、たくさん考える機会がありました。

夏休みに、広島の平和公園へ行きました。原ばくドームや資料館を見学しました。英語の説明がたくさんあったので、よく分かりました。

ばくだんは小さいのに、たくさんの人が死んだり、家がめちゃくちゃになって、原ばくはこわいと思いました。

原ばくの子のぞうも見ました。さき木さだ子さんという女の子が、原ばくで白血病になって、死んでしま

16×16

②

ら話を知りました。

この夏、えひめのおじいちゃんおばあちゃんの家に遊びに行きました。そのとき、おばあちゃんに、原ばくの話を聞きました。

おばあちゃんは、69年前、2才のとき、広島でひばくしました。家族が八人亡くなりました。

とつぜん、空がピカッと光って、目の前に、たんすがたおれてきました。まどガラスがわれて、おばあちゃんはトイレに行く前で、おしりにガラスがささったそうです。

ぼくは、ひばく三世です。広島の旅行は、おじいちゃんおばあちゃんが、ぼくと妹に、平和について勉強

16×16

③

してきなさいと、お金を出してくれました。

今年、現地校の社会で、第二次世界大戦について、習いました。アメリカが原ばくを広島と長崎に落としたのは、戦争を早く終わらせたかったからだと、勉強しました。

たしかに、原ばくを落とさなかったら、戦争がもっとひどくなっていたと思います。

ぼくの父はアメリカ人、母は日本人、ぼくは、両方の国せきを持っています。70年くらい前、この二つの国が戦争していたなんて、悲しくなってしまいます。

戦争を早く終わらせるために、仕

16×16

④

方ないことだったかもしれませんが、原ばくを落としたことは、ゆるされないことです。

前に、ニューヨークの9・11トリビュートセンターに行きました。そこに、さき木さだ子さんの写真と赤い折りづるが展示されていました。さだ子さんが、白血病の薬の紙で折った、小さなつるでした。

このつるは、さだ子さんのお兄さんが、9・11テロ事件の後、平和を伝えるために、トリビュートセンターにおくったそうです。

ほ習校L工校では、四年生の年間プロジェクトで、みんなで千羽づるを折っています。でき上がったら、

16×16

9・ハトリビュートセンターに、かざってもらいます。

ニュースや新聞を見ると、中東や世界のいろんな所で、戦争が起こっています。全ぜん悪くない人が大勢死んだり、食べ物や家がなくなったりしています。ぼくは、こんな戦争はやめてほしいと思います。

ぼくは、千羽づるを折るとき、平和を願いながら折っています。

16×16

NY・LT補習校　四年一組

吉村　和華

私がアメリカに来てから気づいたことですが、アメリカの人は恥ずかしがったりする人が少ないのです。みなさんが自信があふれていて、とてもやさしいです。

ある日、TRGヒアにトレーニンググウェアーを買いに行った時のことです。広いお店だったので、店員さんにWhere is the kids sportswear?（子供用のトレーニンググウェアはどこですか？）とたずねました。すると、店員さんが私の英語をわからなかったようで、もう一度言ってほしいと言われ、私はとても恥ずかしくなってしまい、だまったまま、何も言い出せませんでした。そうしたら、It's okay. I'm trying to understand you.（大丈夫よ、頑張って聞き取れるようにするから、もう一度。）と励ましてくれましたので、私はやっと勇気をしぼり出し、もう一度ふさな声で言いました。店員さんが、Oh, sports suit. Go straight.（トレーニングウェアね。まっすぐ行ったらあるよ。）と、とっても明るい声でやさしく教えてくれました。

16×16

その時から、自信を持って相手にわかるように大きな声で話せたらすてきだな、と思いました。

それから、今年のコロンブスデイのパレードを見に行った時、パフォーマー達の中にとても自立ってるスがいました。なぜならその方が大人になっても身長がのびない病気にかかっているようで、身長が他のがっこいいパフォーマー達のひざぐらいまでにしかなくて、まるで赤い魚達の群れの中にいる一匹の黒い魚・スイミーのようでした。しかし、その方が高く顔をあげ、他のパフォーマー達と一緒に足もそろって行進を進んでいて、カメラマンに写真をとら

16×16

れた時も、ポーズをしたり笑ったりして楽しんでいました。

私はどんな時でも、どんな自分であっても、自信があふれる事は、すごいなぁと、感心しました。

自信がなく、恥ずかしがったりすると、つい本当の声が出せなくなり、音量も小さくなってしまいますので、相手にとっても聞きずらく、なるのではと思います。

これからは私はアメリカの人のこのようなすてきな所を学びたいと思っています。自分を信じ、そしてほこりを持って、はっきりとした声で明るくやさしくお話しできたらと思います。

16×16

「ニャーン」。

と弱い声を出しました。

わたしは猫をかさの下でだっこして、家へ入りました。

「お母さん、お母さん」。

とわたしはさけびました。

「どうしたのよ」。

とお母さんは聞きました。わたしが　を見せると、お母さんは目を丸くしました。お母さんは　をそっと取って、ふとんの上にやさしく置きました。

「手をけがしているから、病院に連れていくわよ」。

とお母さんが言いました。わたしは猫をふとんに包んでバスケットに入れて車に乗りました。町まで遠いのに、と思いました。それを言う前に、お母さんはエンジンをかけて町へ向かいました。猫はしっぽで遊んでいるようでした。でも弱く見えました。

一時間たって、動物病院に着きました。小さな犬がわたしをじっと見ています。せの高い女の人に猫をあげました。猫が

「ニャーワオン」。

と弱い声をまた出しました。

「名前は決めないの」。

とお母さんがわたしに聞きました。

わたしは真けんに考えました。

「みけ」。

16×16

みけ

L工校　四年二組

市川　華

パタ、パタ、パタ。雨が歌っているようです。ポツ、パタ、ポツ。たいくつな日曜日です。

「あっ」。

まどの外を見ると、三毛猫が木の横に目をつぶってねっころがっているようです。でも強い雨でよく見えません。わたしはレインコートとかさを持って外へ走りました。

「どうしたの、ねこさん」。

と聞きました。猫は目をそっと開けます。手をけがして歩けなくなっている。

16×16

とわたしはうれしく言いました。
三毛猫ですから。お母さんはにこっ
として、
「かわいい名前だね。」
と言ってくれました。せの高い女
の人がお母さんにみけの薬をわたし
ました。
三日たつと、みけは薬のおかげで
よくなっているようです。みけのお
気に入りのボールがあって、わたし
はそのボールをみけボールとよんで
います。ミルクも飲んでいるし、元
気に走り回ります。お母さんのお腹
にすわるのも大すきだし。みけって
かわいいのです。
しかし、二週間たった時、みけは

初めてのヒット

L工校　四年二組

こう本　じゅん

次はぼくの番だ。バッターボック
スに入った。どきどきする。このピ
ッチャーはもう二人ストライクアウ
トにした。ぼくはぜったいにアウト
にならないと心にちかいながらベー
スをボンボンと二回たたいた。
でもボールは流れ星のように速か
った。
「ストライク。」
としんぱんがさけんだ。しまった今
ふるべきだった。次は打たなくちゃ
と思った。
二球目はボールが右にそれた。だ

ミルクを飲まなくなりました。みけ
ボールを見もしないです。みけの様
子がおかしいと感じました。
わたしがみけをだいてお母さんと
車に入りました。わたしは、
「だいじょうぶよ、みけ。」
とはげましました。みけは、
「ニャンニ。」
と小さい声で言いました。
しずかに息が止まって、みけは死
んでしまいました。
みけはわたしの一番の　達でした。
わたしの半分がなくなった気持ちで
した。
外を見上げると、たしかに光が雲
に上がっていく様子が見えました。

からぼくはバットをふらなかった。
「ボール。」
やっぱりと、むねをなで下ろした。
三球目だ。ぼくはバットをかまえ
なおした。相手のピッチャーと目が
あった。ボールがまっすぐとんでき
た。ぼくはかいっぱいバットをふっ
た。
「キーン」
ここちよい音が耳にひびいた。三る
いとの間にボールがころがっ
ていくのが見えた。ぼくはライオン
みたいなチームメイトのおうえんを
聞きながらバットを放りなげてーる
いにむかった。きもちよい風がふい
てぼくは空に飛んでいるような気が

した。イチローはいつもこんな気もちなのかな。

16×16

クラスメイトのみんながわたしのまわりに来てくれてたくさんお手紙をくれました。日本語で書いてあるお手紙もありました。とてもうれしくて、一日に五人もお友達を作りました。その後もいつもその五人と遊んでいました。

健はどんどんサッカーが楽しくなってある日お母さんに

「チームに入らせて。」

と言いました。お母さんは

「ほ習校とげん地校の宿題をがんばるならいいよ。」

と言いました。トライアウトを受けて、サイクローンズというチームに入ることになりました。家族でスプ

16×16

ライトでかんぱいしてお祝いしたけれど、わたしは少しもやもやしていました。健はすぐに好きなことが見つかっていいなと思いました。するとお母さんが

「玲奈もサッカーやってみない？」

と言いました。いつも健とサッカーで遊んでいたけれど、チームに入るのは気が乗りませんでした。ソフトボールやバスケや他のスポーツも考えてみたけれどあまり好きではありませんでした。でもある日お母さんが

「器械体そうはどう？」

と聞きました。学校の休み時間にいつもそく転やさか立ちをして遊んで

16×16

わたしの好きな場所

ニューヨークほ習校　四年　一組

市坂　玲奈

わたしは、ニューヨークで二つ好きな場所があります。一つは今住んでいるお家で、もう一つは私が通っている器械体そうのジムです。毎週二回通っています。

わたしは一年半前にニューヨークに来ました。ふた子の健はサッカーが大好きで、英語ができなくてもすぐにたくさんのお友達を作りました。サッカーをするとなかよしになって、どんどんお友達がふえていきました。うらやましいな～と思いました。わたしは最初の日に教室に入ったら、

16×16

いたし、鉄ぼうも大好きだったので、わたしにぴったりだと思いました。

その日から毎日パソコンで器械体そうのわざを調べたり、動画を見てみたらどんどん好きになって、練習が始まるのが待ちきれなくなりました。

初めてジムに行った時はドキドキしたけれど、すぐにわたしの大好きな場所になりました。今年からはチームに入って、もっと練習をがんばっています。

学校で最初の日にお友達になった五人とは今でもとてもなかよしです。お友達はたくさんいたらうれしいけど、たくさんでなくてもよいお友達がいるので同じ位うれしいです。

16×16

たしも車で休けいしたかったけれど、「神社の後、かき氷でも食べようか。」とおばあちゃんが言ってくれたので、少し元気が出てきました。

神社を歩いていると、おばあちゃんが天岩戸神社にまつわるこんな神話を教えてくれました。昔々、天照大み神という太陽の神様が、らんぼう者の弟にはらを立て岩穴の中にかくれてしまったのです。それで、世界がまっくらになってしまったという話です。その岩穴が天岩戸神社にあるのです。

神社のじゃり道をぬけると、だんだん道がけわしくなってきました。すぐ横は川が流れていて、高い木ひく

16×16

この夏の旅行

W校　四年二組

増田　朋

この夏おじいちゃんとおばあちゃんが宮崎県にある天岩戸神社にわたしと弟をつれていってくれました。

その前に、高千ほけい谷で山道をたくさん歩いていたので本当は「行きたくない。」と思いました。でも、おじいちゃんがせっかく計画をたててくれたのでがんばって行くことにしました。

車の中で弟がねむってしまったので、おじいちゃんと弟は車でるす番、わたしとおばあちゃんだけ天岩戸神社を観光することになりました。わ

16×16

い木が生いしげっています。それで、日の光がさえぎられ昼なのにうすぐらく、わたしは少しこわくなりました。天照大み神が岩穴にかくれてしまった時もこんな風にくらかったのかなと想像しながら歩きました。

「ほら、あれが神様がかくれた岩穴だよ。」

おばあちゃんが川の向こう側を指さしました。わたしは、おばあちゃんが指す方をよくよく見ました。でも、草木がしげっているだけで岩穴なんてさっぱり見えませんでした。

「こんなに歩いてきたのになあ。」とがっかりしました。

さらにおくへ進み、最後は天安河原

16×16

に着きました。そこには、小さな鳥居と洞くつがあります。この洞くつにも伝説があります。天照大み神が岩穴にかくれてしまった時、日本中の神々がこの洞くつに集まりました。そして、どうすれば天照大み神が外に出てきてくれるか相談したそうです。洞くつの中は、ひんやりしていてとても神び的でした。本当に神々がここにいたのかもしれないと不思議な気持ちになりました。

帰り道、わたしの頭の中はもうかき氷のことでいっぱいでした。早くかき氷を食べたくて、早足でもどりました。

「おばあちゃん、ちゃんとかき氷の

約束おぼえてるかな。」

少し心配になってきました。でも、お店の前に着くと、

「がんばったね。かき氷食べようね。」

と言ってくれました。たのんだブルーハワイを一口食べると、あまくてつめたくて一気に元気になりました。おばあちゃんにもおすそ分けすると、

「あー、生きかえるね。」

と言って喜んでくれました。

かき氷を食べ終え、おいしいちゃん達の所へもどりました。弟がおこるのでかき氷のことはないしょにしました。たくさん歩き足がぼうになったけど、おばあちゃんと食べたかき氷はとてもおいしかったです。

引っぱられる、でも、引く

W校四年二組立本千乃

「プーーッ。」

という音は、つな引きのスタートの合図だ。その〇・五秒後に、赤組、白組が、つなを力いっぱい引っぱり、一年、二年、三年、よう児部からの応えんが、この学校のフィールドをいっぱいにした。

わたしは、引っぱる前に思っていた。今は、六十点以上の点差がある。それに、台風の目、徒競走など、全部負けている。一つでも、競ぎい勝ちたい。それに、兄が、六年生。今日しか、六年生の運動会、つまり、

ニューヨークほしゅうじゅ業校の二〇一四年の運動会は、今日しかないのだ。だから、点差を少しでもちぢめたい。せめて、五十点差ぐらいには、

今わたし達がいるサイドは、草が少ししかない。だから、すごく強めに引かないとあぶない。だから、がんばって、力のかぎりに、ぐいっと引っぱった。

「よいしょ！よいしょ！」

と、声を出し、できるがぎり、引っぱった。でも、白組の力が、赤組の力で消された。と言うより、赤組が強くて、白組の力が使えなかった。いつの間にか、赤が後ろに、白が少

し前にでていたようで、かけ声が、わたしの中で二倍になった気がした。

「よぉいしょぉ！よぉいしょぉ！」

それは、まじくて、負けそうな、証こだった。でも、引っぱった。がんばって、ふんばった。でも、前に出てしまった。

「ピィーーッ！」

ホイッスルの音がした。わたし達白組は前にたおれこんだ。これは、わたしには、一回戦、負け。という合図だった。

わたしは、二回戦が始まる前に考ていた。勝てないのなら、負けるよりも、引き分けにしたい。草がいっぱい生えている方なら、できるかもしれない、と。笛がなる。わたし達は後ろにたおれる。そして、とびあがり、手をえにあげて、勝ったことを、うれしい声をあげながら、わいわいと喜んだ。

でも、わたしは思った。草がはえて、やりやすい方だったから、勝ったのかな、と。

今年の運動会は負けた。でも、とても楽しかった。だから、白組でも赤組でも、勝っても負けても、またやりたいと思った。運動会を。

16×16

しれない、と。

赤組、白組両方準びがととのい、つなを持った。

「プーー」

と、スタートの音が鳴る。最初の引きをさっきの一・五倍強くして、ともっと強くして、かけ声をかけ、つなをぐいっと引いた。

「よいしょ！よいしょ！」

と引く。でも、前に行きそうになる。でも、引く。だんだん手がつかれてくる。でも、まだ、がんばれると思い、自分の九十二パーセントの力を使う。のこりは応えん用。引かれそうになっても引く。もうたおれそう。

「ピィーーーッ！」

おどろきの毎日

W校 4年3組

鹿内 春伽

わたしは、ニューヨークに来て約一ケ月がたちました。外国でくらすのは初めてで、九月から、アメリカの小学校へ通い始めました。日本の小学校と違う事がたくさんあり、とてもおどろきました。その事を紹介します。

学校が始まって一番最初におどろいた事は、授業と授業の間に休けい時間がない事です。ベルが鳴ると、すぐに次の授業が始まりました。やっと休けいできると思ったので、とても残念でした。一体いつ休む事が

できるかと、心配になりました。
休み時間にな。たのは、お弁当の前でした。休み時間がないので、トイレにいつ行く事ができるのかと心配になりました。日本人のお友達に聞いたら、授業中に行ってもよいと教えてくれたので、安心しました。
まわりのお友達を見ておどろいた事は、持ち物の違いです。日本の学校では見た事のない物を見つけました。おもちゃを持ってきているのです。信じられないと思いました。まちがえて、うっかり持ってきているのかと思いました。よく周りを見てみると、たくさんの人がおもちゃを持ってきて休み時間に遊んでいまし

ら、全部が↙だ。たのでとてもおどろきました。全部まちがえてしまったのかと思いました。けれどもどこもまちがっていません。お友達に聞いてみると↙は、0の意味だと教えてくれました。それでや。と日本で聞いた話が本当だとわかりました。
全く逆の事もあるのだと思いました。
アメリカに来ておどろいた習慣は、何でもすぐに捨てる事です。最後まで食事を食べないで、途中で捨てる人がいました。でも、先生は注意しません。食べたくない物は、すぐに捨てます。わたしは、もったいないなと思いました。日本の給食ではありえない事です。食べ物だけではな

た。アメリカの学校は、おもちゃを持ってきてよいのだとわかりました。おもちゃを持ってきている人は、授業中はぜったいにかばんの中から出しません。日本の学校でおもちゃを持ってきてよい事になったら、授業中に出す人がいるだろうなと思いました。アメリカの子は、きまりをしっかり守るのだなと思いました。
日本とアメリカの方法が逆でおどろいた事は、丸つけです。引っ越し前に、アメリカでは、正解が↙で不正解が0と習いました。わたしは、そんな事はないだろうと思っていました。アメリカの学校で、先生が丸つけをして下さったプリントを見た

く、あまりよごれていないナプキンや紙皿も一度使ったら、すぐ捨てます。給食の食器も使い捨ての紙皿です。物を大切にする日本の習慣は、とてもすばらしいと思いました。
この一ケ月間でおどろいた事が他にもたくさんありました。アメリカの学校が良いなと思った事も日本の学校の方が良いなと思う事もありました。これからも、もっといろいろな違いを見つけていきたいと思います。違いを見つける事は、とても楽しい事です。

アメリカと日本の違い

ニューヨーク補習授業校四年三組
今堀　豪太

ぼくは、二月八日にアメリカに来ました。

空港を出て最初に目に入ったのは、すごくたく山の雪です。見た事の無い雪の多さで、びっくりしました。

タクシーに乗りましたが、運転手の運転が日本よりもあらくて、それにもおどろきました。

そして、家につきました。家について、一番最初に不思議に思ったのは、おふろにバスタブがなかった事です。でも日本より、庭が広くて、部屋数も多いし、地下室もあります。

オシャレだと思いました。ただ、メニューに関しては、ワンパターンでそんなにおいしくありません。

ぎゃくに日本は、栄養のバランスや、つねにおいしく食べられるように考えられているので、ぼくは給食がとてもおいしかったことが、アメリカに来てあらためてわかりました。

また、ぼくは特におすしが大好きなので、おすしのねだんが高くてびっくりしました。他にも一つの料理がすごく大きくて、しかも油っこい料理がたく山出て来て、アメリカ人の健康が心配だと思いました。

やはり和食が自分にとって一番おいしくて体に合っている食べ物だと思います。

このように日本では気づかなかったけれど、アメリカに来て初めて気づいた事が多くあります。また補習校で日本の事、現地校でアメリカの事が学べるので自分にとって貴重な経験だと思います。

そしてこの経験を生かし、将来は世界の国々を橋渡しできる仕事をしたいです。

また、現地校に通って、日本の学校とちがった事はたく山あります。

一つ目は、日本の学校は日本人ばかりだけれど、アメリカの学校は、色々な人種の友達がいるので、様々な言語や文化が学べます。

二つ目は、アメリカはESLがあるけれど、なぜ日本にないのかなと思いました。なぜなら、ぼくの通っていた日本の学校に二ージーランド人の友達が転校して来た時、日本語を最初から学ぶクラスがなくてかわいそうだったからです。

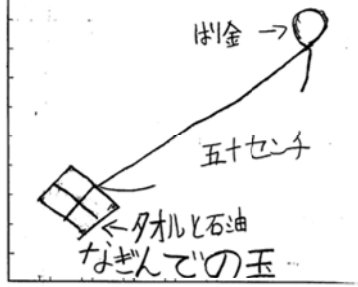
それから、食べ物に関して言えば現地校では、ランチの時に教室で食べないでカフェテリアで食べるので、

初めてのなぎんで

LT校　五年一組
保坂　ウォンディ

なぎんでの火の玉を私は回します。ビュンビュンビュン。火の玉は私の心の様に熱く熱く燃え上がりました。うでが少しつかれたので、ふるのをやめました。その時、うでがいんどん熱くなっていきました。熱いと思ったが一分後、「そうだ。ふっていないと、やけどするんだ。」と思い出しました。そして、当分の間、反対の左手で回しました。

なぎんでとは、小さな石炭をタオルにまいて、それをはり金で、くくって、五十センチぐらいのはり金の先に手に持つ所を作って石油に付けて、火を付けて、ぶんぶん鳴るまで前後にふって、わらの



20×20

私のはとこのゆうとくんが投げた玉が入った時でした。投げたしゅんかんはなにも起こりませんでした。なあんだ。だめか。と思ったしゅんかんパチパチ。とても大きな音で鳴り始めました。これは、バスケットの中に石油の袋が入っていて、それに火の玉が入ってわらに火が付いて、パチパチと燃え上がったからです。とつぜんの事だったので、びっくりしてしまいました。うるさかったです。となりの町まで聞こえそうな気がしました。みんなは、ゆうとくんをすごいすごいとほめました。私も、

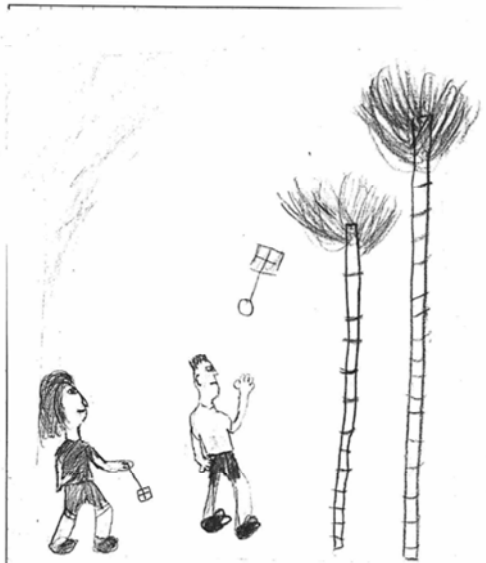
「良かったね。すごいね。」

と、ほめてあげました。ゆうとくんはみんなにほめられてにこにこしていました。なぎんでをやる前は私はとても不安でぎんちょうしていましたが、がんばったら、どんどん玉がわらが近付いていきました。もう一つのなぎんでの竹はもっと高い十五メートルぐらいの竹の上だったので、私はやめておきました。

20×20

バスケットに勢い良く投げる遊びです。投げる所は大きな長い十メートルぐらいの竹の上のわらで出来たバスケットです。かんたんそうに聞こえますが、実は歯がゆくなってしまうほどむずかしいのです。山梨でよくある死んだ人を呼ぶための夏休みのおぼんのころにやるお祭りです。私は去年おぼんのころに見て、とってもやってみたかったのですが、火でやけどをしそうだったので、やめておきました。けれども、今年は母も東京にいて、いませんでしたし、どうしてもやってみたかったから、やってみる事にしました。

次は私の番です。ビュンビュンビュンとまた鳴る様にうでをふります。三、二、一、ゼロ。心の中で数えました。何度も何度も投げました。入れるのはとてもむずかしくて、玉はなかなか行ってほしい所には飛びません。最後に投げた玉は五センチぐらいしかはなれていませんでした。だんだん入りそうな気がしました。やっとなぎんでが燃え上がったのは、



とてもむずかしそうでした。

来年は気合いを入れて、高い竹にもちょうせんしようと思います。夜暗くなってから川原でやるので、明るい服を着る方が良いです。ぶかぶかする洋服も火が付き易いのでだめです。虫よけスプレーもして行きます。そして、わらの中に入る様にしたいです。とても楽しいなぎんで大会でした。

20×20